

2007 [2]

n を 2 以上の自然数とする。1 つのさいころを n 回投げ、第 1 回目から第 n 回目までに出現した目の最大公約数を G とする。

(1) $G=3$ となる確率を n の式で表せ。

(2) G の期待値を n の式で表せ。

2007 回 (解答)

No.

Date

(1)

$G=3$ のとき

3 または 6 が n 回出て、かつ、6 が続けて n 回出る場合より、

$$\left(\frac{2}{8}\right)^n - \left(\frac{1}{8}\right)^n = \left(\frac{1}{8}\right)^n - \left(\frac{1}{8}\right)^n$$

(2)

$G=6$ のとき

6 が n 回出る場合より $\left(\frac{1}{8}\right)^n$

$G=5$ のとき

5 が n 回出る場合より $\left(\frac{1}{8}\right)^n$

$G=4$ のとき

4 が n 回出る場合より $\left(\frac{1}{8}\right)^n$

$G=2$ のとき

2, 4, 6 が n 回出て、かつ、4 が続けて n 回出る、
かつ、6 が続けて n 回出る場合より

$$\left(\frac{3}{8}\right)^n - \left(\frac{1}{8}\right)^n - \left(\frac{1}{8}\right)^n = \left(\frac{1}{2}\right)^n - 2 \cdot \left(\frac{1}{8}\right)^n$$

$G=1$ のとき

余事象も考え

$$1 - \left\{ \left(\frac{1}{8}\right)^n + \left(\frac{1}{8}\right)^n + \left(\frac{1}{8}\right)^n + \left(\frac{1}{3}\right)^n - \left(\frac{1}{8}\right)^n + \left(\frac{1}{2}\right)^n - 2 \cdot \left(\frac{1}{8}\right)^n \right\}$$

$$= 1 - \left(\frac{1}{2}\right)^n - \left(\frac{1}{3}\right)^n$$

したがって、 G の期待値は

$$1 \times \left\{ 1 - \left(\frac{1}{2}\right)^n - \left(\frac{1}{3}\right)^n \right\} + 2 \times \left\{ \left(\frac{1}{2}\right)^n - 2 \cdot \left(\frac{1}{8}\right)^n \right\} + 3 \times \left\{ \left(\frac{1}{3}\right)^n - \left(\frac{1}{8}\right)^n \right\}$$

$$+ 4 \times \left(\frac{1}{8}\right)^n + 5 \times \left(\frac{1}{8}\right)^n + 6 \times \left(\frac{1}{8}\right)^n$$

$$= 8 \cdot \left(\frac{1}{8}\right)^n + 2 \cdot \left(\frac{1}{3}\right)^n + \left(\frac{1}{2}\right)^n + 1$$

公式

○ 事象Aの起る確率 $P(A)$ の求め方

$$P(A) = \frac{n(A)}{n(U)} = \frac{\text{事象Aの起る場合の数}}{\text{起りうるすべての場合の数}}$$

○ X のとりうる値を x_1, \dots, x_n , X がこれらの値をとりうる確率を p_1, \dots, p_n とおくと,
 X の期待値 E は

$$E = x_1 p_1 + \dots + x_n p_n \quad t \in U \quad p_1 + \dots + p_n = 1$$

○ 最大公約数 ... 0ではない整数の公約数 a のうち最大 a の公約数 ... 2つ以上の整数に共通な約数。

ポイント

○ n に具体的な数字を入れて実験してみる

例) $n=2$ のとき $G=1$ の確率は ...

$n=3$ のとき

おおよその目安として、数字を3つくらい入れて考える。

○ 1~6 までの数字の全2の約数を把握しよう。

1	...	1
2	...	1, 2
3	...	1, 3
4	...	1, 2, 4
5	...	1, 5
6	...	1, 2, 3, 6

⇒ 最大公約数のパターンには 2つある。

つまり、『1, 2, 3』と『4, 5, 6』

○ 余事象を上手に使う。